

## 令和6年度 柴島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

#### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

### 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

### 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 令和6年度 柴島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	43	56	61	1.6	6.8
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

### 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	42	70.3	47.9	52.3	50.1	60.1	3.7	4.5	13.4	5.5	5.2
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9
2 年	学校	36	77.2	53.5	60.3	59.2	60.3	4.2	2.2	4.2	3.2	4.4
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	41	63.3	56.1	53.9	67.1	66.8	6.1	4.9	5.6	1.2	3.5
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.0	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

### 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	40	114.8	—	115.9	—	164.1	—	110.0	—
10月17日	大阪市	—	105.7	—	104.6	—	149.6	—	102.1	—

### 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			37	24.53	39.69	48.82					
2 年 男 子	学校	25.63	24.53	39.69	48.82	76.31	—	8.52	183.56	16.88	43.70
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	—	8.08	194.64	19.84	49.30
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	—	7.99	197.18	20.57	50.00
2 年 女 子	学校	21.48	24.71	48.00	45.55	54.81	—	9.12	170.95	11.26	49.28
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	—	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	—	8.96	166.32	12.40	47.31

## 令和6年度 柴島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

##### ○令和6年度全国学力・学習状況調査

###### ・国語

<成果> 全国の平均正答率と比較して、「書くこと」「我が国の言語文化に関する事項」の領域において、上回る結果であった。

一方で、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域において、全国の平均正答率を下回る結果であり、「話すこと・聞くこと」の領域において、全国の平均正答率と同様の結果であった。

<課題> この結果から、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域の学習に課題があることがわかった。

###### ・数学

<成果> 全国の平均正答率と比較して、全領域「A数と式」「B図形」「C関数」「データの活用」において上回っていた。特に、「A数と式」「B図形」は10ポイント以上上回っている。また、評価の観点の「知識・技能」「思考・判断・表現」においても、大幅に上回っていた。特に、校内のテスト等では「思考・判断・表現」は少し弱いと考えていたが、10ポイント以上上回っていた。これは生徒たちの「思考・判断・表現」の問題への意識が高まった結果の表れだと思われる。更に、問題形式別の「選択式」「短答式」「記述式」においては、特に「記述式」の正答率が全国を10ポイント以上上回っていた。

<課題> どの領域においても、全て全国を上回っているが、数学を極端に苦手とする生徒が1割以上いるので、その生徒たちへサポートがこれから特に必要である。

##### ○中学生チャレンジテスト(3年生)

<2年次チャレンジテストの結果(対府比)> 0

国語1. 03 社会1. 01 数学1. 12 理科1. 01 英語1. 11

<3年次チャレンジテストの結果(対府比)>

国語1. 08 社会0. 95 数学1. 07 理科0. 96 英語1. 12

経年比較から、2年次は5教科で府を上回っていたが、3年次は3教科で府を上回った。

・各教科の領域・観点・問題別の分布では、平均点が府とほぼ同じであったが、社会の歴史的分野、理科の生命、地球の領域で府より下回った。

##### ○大阪市英語力調査(GTEC)

・R4は3年チャレンジ対府比0. 83、GTEC414、R5は3年チャレンジ対府比0. 88、GTEC419に対して、R6は3年チャレンジ対府比1. 12、GTEC504. 8であった。

・CEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合は、R5は51. 2%に対し、R6は70. 0%であった。

##### ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

R6調査、2年男子はすべて全国平均を下回った。一方、2年女子は上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅とび、体力合計が全国平均を上回った。一方、校内のアンケートにおいては、運動やスポーツをすることが好きと肯定的な回答する生徒の割合は、2年生82. 4%で、1年生76. 8%、3年生77. 8%よりも高い。

##### ○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

チャレンジテストにおいて2年は R5 対府比1. 12→R6 対府比1. 16となり、昨年より0. 04上回った。 1年は対府比1. 08 となり、R5年度の1年より0. 04下回ったが、府平均を上回る結果が得られた。

チャレンジテストplusにおいては対市比で社会1. 04、理科1. 21という結果となった。

#### 【今後に向けて】

・国語では、現在、少人数授業を中心に授業展開している。しかし、これからは習熟度別授業を実施して、個に応じた授業展開をしていく必要がある。また、現在も実施しているが、授業内だけでは理解不十分な生徒に対しては、放課後の補習等も引き続き実施していくと考えている。

・数学では、特に「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域の学習に重点を置いていきたい。